

# 実施計画事業評価シートの見方 1 頁

平成21年度 事業評価シート 1 頁

1. 事業の位置付け

事務事業名	青少年指導員活動事業	
事業担当	健康・こども部 青少年課	
予算科目	01-030105-030000	事業種類 <input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	01 基本目標 1 豊かな心をほぐみ、よろこびとふれあいにあるまち 01 ①〈人間力〉一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をほぐむ 01 1 いのちを大切にすることをもち、社会性や規範意識を身につける環境をつくる	
根拠法令等		
対象・受益者	青少年	事業期間
委託・協働	【委託: <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> その他】 【協働: 市民・自治会等】	
目的・目標	地域から選出された青少年指導員が、行政とともに青少年への指導・助言や、地域行事のサポート、環境浄化活動などを行い、明日を担う青少年の健全育成と、それを実現できる環境を育てています。	
事業の概要	青少年健全育成を地域ぐるみで推進するため、地域人材を青少年指導員に委嘱し、地域行事への協力や青少年への指導などを行うとともに、研修会などの実施により指導員活動を支援します。	

2. 事業の検証

指標名	理事会・総会開催回数							単位	回
説明・算定式									
活動指標①	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
目標		7	6	7	6	7	6		
実績		7	6						
指標名								単位	
説明・算定式									
活動指標②	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
目標									
実績									
指標名	青少年指導員の活動率							単位	%
説明・算定式	(実際にイベント等で活動した期間(月を上半下旬に3区分した期間)の数÷(12箇月×3期間×28地区))×100								
成果指標①	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
目標		73	74	75	75	75	75		
実績		71.6	77.7						
指標名								単位	
説明・算定式									
成果指標②	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
目標									
実績									
進捗状況	①: 予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果	理事会5回、総会1回、研修会を2回開催しました。その他各地区で青少年健全育成のための行事等を開催し、青少年健全育成の取り組みを地域ぐるみで推進しました。								
平成20年度の検証結果	A: 成果があがった								

**説明・算定式**

指標の説明を要するものについて記載しています。

5段階評価の場合、「5」が最も高い評価となります。

3段階評価の場合、「3」が最も高い評価となります。

**進捗状況**

活動指標の目標値に対する実績値の割合により評価します。

予定どおり.....90%以上

若干遅れている

.....70%以上90%未満

遅れている

.....70%未満

**検証結果**

成果指標の目標値に対する実績値の割合により評価します。

A 成果があがった.....90%以上

B おおむね成果があがった

.....70%以上90%未満

C 十分に成果をあげることができなかった.....70%未満

**総合計画の位置付け**

「平塚市総合計画 生活快適・夢プラン」における位置付けを示しています。

**活動指標、成果指標**

平成18年度は計画外のため空欄です。基本的に平成24年度まで目標値を記載していますが、次の場合は例外となります。

- ・計画が途中で終了する場合 計画の最終年度までを記載
- ・平成22年度から指標全体を変更する場合 新たな指標を調整中のため記載無し

事業の進捗を目標値とするものは、成果指標のみの記載となり、この指標において進捗状況と検証結果を評価します。

**遅れている理由**

進捗状況が 及び の場合のみ、理由を掲げます。

**事業分析**  
 事業を「必要性」「有効性」「妥当性」「効率性」の4つの観点から分析しています。

2 頁

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
事業分析	必要性 <input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	県を中心に各市に同様の制度があり、市が関与することで連絡体制も円滑化されていますので、今後も事業を継続して行う必要があります。	● 高 ○ 低
	有効性 <input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	青少年指導員の活動は、次世代育成や環境浄化に非常に効果があり、子ども大会や成人式等の青少年育成事業の運営にも欠かせない存在となっていることから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	本市の青少年指導員の人数は、他の自治体に比べるとやや多いが、地区毎に行う事業の規模や、役員にかかる負担を考慮すると、事業内容は妥当であると思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性 <input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	青少年指導員の活動は基本的にボランティアであり、地域に居住する大人の中から選出されているため、域内の事情にも通じ、少ない予算の中で地域の青少年育成に貢献していることから、妥当性は高いと思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 小学校区によっては子どもの数が増えており、各地区の青少年指導員の数の見直しを図る必要があります。			

今後に向けた課題の分析  
 課題を明確にしています。

**執行率**  
 計画額(実施計画書に掲載)に対する決算額の割合を示しています。

(単位:千円)

3. 年度別事業内容・事業費

事業内容	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	決算額	決算額	決算額	予算額	試算額	試算額	試算額
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	602	578	350			
起債	0	0	0	0			
その他 特財	0	0	0	0			
一般財源	0	4,599	5,334	4,826			
事業費(A)	0	5,201	5,912	5,176			
執行率(%)	0.00	97.45	98.58				
内 職員(人)	0.00	0.45	0.45	0.47	0.47	0.47	0.47
配 再任員(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費(B)	0	3,776	3,776	3,928	3,928	3,928	3,928
フルコスト(A+B)	0	8,977	9,688	9,104	9,755	9,104	9,755

平成21年度当初予算額を掲げています。

決算額、予算額、試算額、事業内容  
 平成18年度は計画外のため空欄です。基本的に平成24年度までを記載していますが、次の場合は例外となります。  
 ・計画が途中で終了する場合  
 計画の最終年度までを記載  
 ・平成22年度から事務事業とする場合  
 平成22年度までを記載し、平成23年度以降記載無し

**人件費**  
 平均給与により算出しています。

**平成22年度の取組方針**  
 事業終了の場合は記載がありません。

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性  
 現状の規模で継続  拡大して継続  縮小して継続  廃止  休止  終了  他事業と統合

<判断理由>  
 原則として現状のままで継続しますが、市内各地区での人口の増減等を考慮し、各地区の指導員数の見直し、又は青少年指導員自体の定数増を考慮する必要があります。

平成22年度の取組方針  
 各地区代表で構成される理事会での意見交換を活性化させるなどし、地区活動が円滑に進むよう取り組みます。また、22年度は指導員の任期替えのため、新任指導員のためのユニホームを発注します。

課長コメント  
 「地域の子どもは地域で育てる」という考えに基づき、青少年指導員の活動が重要な役割を果たしています。今後は、地域の他団体との連携をさらに深め、地域全体で子どもたちを見守り、育てていく環境の醸成を図っていきます。

今後の事業展開  
 担当課としての提案であり、予算編成を行う中で参考にするものです。

事業展開の経緯

ここでは、これまでの内容を再掲し、事業の経過を確認することができます。

なお、平成18年度は計画外のため空欄です。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		理事会2回開催。総会2回開催。研修会を2回開催。その他各地区で青少年健全育成のための行事等を開催し、青少年健全育成を地域ぐるみで推進することができた。	理事会5回、総会1回、研修会を2回開催しました。その他各地区で青少年健全育成のための行事等を開催し、青少年健全育成の取り組みを地域ぐるみで推進しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		青少年指導員の地区活動そのものに問題はないが、地区によっては子どもの数が増えており、そのため各地区の青少年指導員数の見直しを図る必要がある。	小学校区によっては子どもの数が増えており、各地区の青少年指導員数の見直しを図る必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		平成20年度の任期替えでは指導員が大幅に入れ替わった地区があり、指導員が地区行事等の運営に戸惑うケースが見受けられた。各地区代表で構成される理事会で意見交換を活性化させるなどして、地区の運営が円滑に進むよう取り組みたい。	各地区代表で構成される理事会での意見交換を活性化させるなどし、地区活動が円滑に進むよう取り組みます。また、22年度は指導員の任期替えのため、新任指導員のためのユニホームを発注します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。